

A型の疑い濃きボトリヌス菌について

(予 報)

児玉栄一郎 藤沢 宗一 坂本 昭男

1953年秋田県下にはじめてボトリヌス中毒が発生して以来、余等は八郎潟を中心として県内各地の土壌について細菌学的検索を実施し相当数のボトリヌス菌を検出した。

これらの菌株は何れもE型であるが男鹿市北浦の海岸及び八郎潟西部の湖岸より採取した砂から検出した4株はその産出する毒素の中和試験を行った結果A型抗毒素血清に中和されることを知った。

そしてその培養、生物学的性状はグラム陰性、両端鈍円

の桿菌で、肝々ブイヨンに移植し30°C、24~48時間培養すれば発育が認められ肝片消化悪臭を放つ。その他凝固卵白、凝固血清を消化しゲラチン液化、牛乳凝固等の性状を有し、明らかにE型と区別される。

余等は現在更に生物、血清学的性状について追及中であるが、その詳細は伝染病学会で報告する予定である。

尚菌株の一部を弘前大学山本耕一教授の許へ送付し検討を依頼した。